

平成28年度 専門委員会活動報告

(1) 第1部会「新荷役機械システム調査研究委員会」

①調査研究テーマ

コンテナヤード内の効率性向上に関する調査研究（新規）

②調査研究活動報告

コンテナヤード内の効率性向上を検討する際の前提となる、効率化・自動化等の現状について、ヒアリング調査を行った。具体的には、神戸港及び横浜港の港運会社からターミナル運用の実態についてヒアリングを行った。一方で、荷役機械の遠隔操作化に関する安全規則の考え方について、厚生労働省労働基準局を訪問し、担当官からヒアリングを行った。さらに、ヒアリング調査の結果をもとに、荷役機械の効率化に伴うリスクアセスメントについて検討し、報告書としてとりまとめた。

(2) 第2部会「荷役機械に係る異分野技術調査研究委員会」

①調査研究テーマ

荷役機械に係る異分野技術調査研究（継続）

②調査研究活動報告

- 1) 特定の港のコンテナクレーンの検査・点検業務における問題点を概括し、一例としてスプレッダの検査・点検と補修工事に関し検査・点検結果の評価技術及び補修工事内容の標準化の検討を行った。その結果、最も基本となる検査・点検は、その結果の評価を標準化して行える技術レベルになく、検査・点検の実施者の知見に左右される状況にあると判断された。また、現行の「コンテナクレーン検査・点検表」は、10年以上見直しが行われてなく、更に「検査・点検表」の運用に関しても注記が必要と判断された。
- 2) 本委員会としての「検査・点検表」の見直しの視点を取りまとめた。
- 3) 「検査・点検表」の見直しについて、見直しの視点をつけて「付帯施設標準化調査研究委員会」及び「荷役機械用電機設備調査研究委員会」に依頼した。
- 4) 「港湾荷役機械の点検診断ガイドライン」の“4.点検診断の項目及び方法”解説①“軌道走行式荷役機械”の4)“詳細定期点検診断”において、「“経年クレーンの特別査定指針（日本クレーン協会 1102-2007）”を参考にすることができる。」とあるが、当協会の自主調査研究委員会報告書「コンテナクレーン設備診断要領（指針）H21.3」の内容は、上記指針と並ぶものと確認したので、今後、本要領の活用を働きかけることとした。

(3) 第3部会「付帯施設標準化調査研究委員会」

①調査研究テーマ

その1：コンテナクレーン製作工事共通仕様書の見直し（継続）

その2：コンテナクレーン検査点検表の見直し（新規）

②調査研究活動報告

その1：平成11年3月に改訂したコンテナクレーン製作工事共通仕様書をベースに前回改訂以降の技術の進歩を反映した内容とすべく第5章の電気設備の部分を除く章について記述内

容の見直しを行った。また、記述内容の見直しの際に根拠、参考とした資料および記述内容の真意（意図）等を解説編にまとめた。

その2：平成8年10月に改訂したコンテナクレーン検査点検表をベースに現状のクレーン仕様に合致した内容とすべく、記述内容の見直しを行った。

（4）第4部会「荷役機械用電機設備調査研究委員会」

①調査研究テーマ

コンテナクレーン製作工事仕様書（電気設備）の見直し（継続）

②調査研究活動報告

付帯施設標準化調査研究委員会で実施した標準仕様書の最新版を入手し、機械部分にも電気に関する表記があるため、仕様書全体を読み合わせることで、修正点を全委員でピックアップし、仕様書全体に渡り記述を修正した。また、最近使用され始めたLED照明、スプレッド衝撃軽減のためのインタロック等の表記も追記した。解説書についても、同様に修正を行った。